

令和6年度九州森林管理局事業評価技術検討会 議事概要  
(完了後の評価)

1. 日 時： 令和6年7月31日（水）13：30～：14：10
2. 場 所： 九州森林管理局 4階 第2会議室（一部Web）
3. 出席者： 技術検討会委員 藤掛委員長、寺岡委員、黒川委員  
九州森林管理局 森林整備部長、計画保全部長、企画調整課長、計画課長、治山課長  
森林整備課長、専門官（災害調整担当）、主査（監査）、監査係
4. 議 題： 完了後の評価（森林環境保全整備事業）  
・大分南部森林計画区・広渡川森林計画区・北薩森林計画区

5. 議事概要

森林整備課 専門官より完了後の事業評価（案）について、大分南部森林計画区を代表事例として説明、その後に質疑応答。

（委 員）

総費用・総便益が事前評価時点の計画と比べ変わっていることについて、大分南部と広渡川は総費用が増えて総便益が減ったためB/Cが下がった、北薩は総費用が増えたが総便益も増えたことからB/Cは同じような値となったところであるが、林道と森林整備について、今後、分析を行う際の参考としているので、もう少し詳しくどういったところが変わったのか説明されたい。

（九州局）

大分南部については事前評価時点の計画と比較すると、森林整備事業の実施率が約27%、路網整備の実施率が約22%、広渡川については森林整備事業の実施率が約43%、路網整備の実施率が43%、北薩については森林整備事業の実施率が61%、路網整備の実施率が54%となっています。

北薩については、大分南部と広渡川に比べて計画に対する実行率の相違があったためこのような結果となっていると考えられます。

このことから、森林整備と路網整備が進むことによって、総費用・総便益が上がったということになると考えられます。

（委 員）

実行率が計画区ごとに差があるのは、何か理由があるのか。

大分南部であれば、実施率が約20%であるにも関わらず、総便益が事前評価時点と比べると約8割となっているのはなぜか、便益が上がる理由が何かあるのか。

（九州局）

森林整備の効率的な施業を行ったためと考えられます。

（委 員）

次回から構ないので、総費用・総便益算出の参考として、事前評価と完了後の評価が同じ条件で評価されたのか、事業実施箇所の選定理由（B/Cが高い箇所から等）についても説明をお願いしたい。

（委 員）

林道の新設より改良の方がB/Cが高い傾向にあるのはなぜか。

(九州局)

改良は元々ある林道を整備することで、森林整備を実施する区域が広くなることによって総便益があがり、B/C が高くなると考えられます。また、新設よりも改良の方がコストがかからないため、総費用が抑えられることも要因として考えられます。

(委員長)

意見も出尽くしたようなので、これまでの説明を踏まえ、技術検討会による意見の取りまとめを行いたい。

完了後の評価については、「費用便益分析結果、森林・林業情勢その他社会経済情勢の変化、地元の意向、また、森林整備事業を行うことにより、水源涵養や山地保全、木材生産等の森林の持つ多面的機能の維持増進が図られてきており、事業の効果が発揮されていると認める。」として取りまとめてよろしいか。

(委 員)

異議なし。